

2-2. 鉄骨造【木造下地外壁の設計】

⚠ 警告：適用範囲

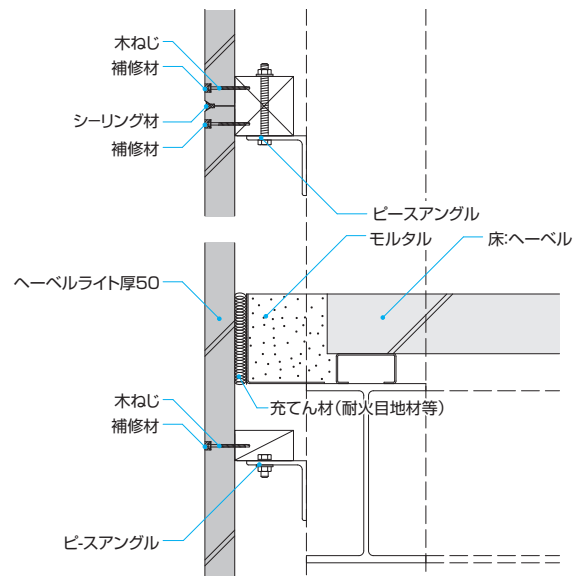
- ヘーベルライトは、胴縁など二次部材に木材を使用する鉄・木併用工法の鉄骨造の壁にも用いることができます。
- 非耐力壁として用い、木胴縁に専用木ねじで直接取り付けます。

※本章は木造下地外壁での設計上の注意点をまとめたものです。
その他の注意事項は、「2-1. 鉄骨造【鉄骨下地外壁の設計】」に準じます。

⚠ 警告：下地の設計

- 胴縁(間柱)の間隔は500mm以下(標準450・455・500mm)としてください。(600mm、900mmは不可とします。取付部の強度不足のため、パネル脱落のおそれがあります。)
- ヘーベルライトの割付け上短辺接合部となる位置には、柱材または間柱に添木を設け、パネル端部のかかり代を確保します。
- 鉄骨躯体の建て方誤差を吸収するためにも、木間柱は鉄骨躯体から30mm程度離して取り付けます。
- 鉄骨フランジ面にはパネルを直接固定できませんので、パネルの下地材を設けてください。木下地が施工困難な場合は鋼製下地とし、鉄骨用ビスで留めつけてください。特に出隅部のディテールにご配慮ください。
- 間柱の断面は原則として構造計算で決定します。一般地域での標準的な断面としては、2階部で三つ割り材(33×105mm)、3階部で二つ割り材(45×105mm)程度とします。

下地の設計(縦張りの例)

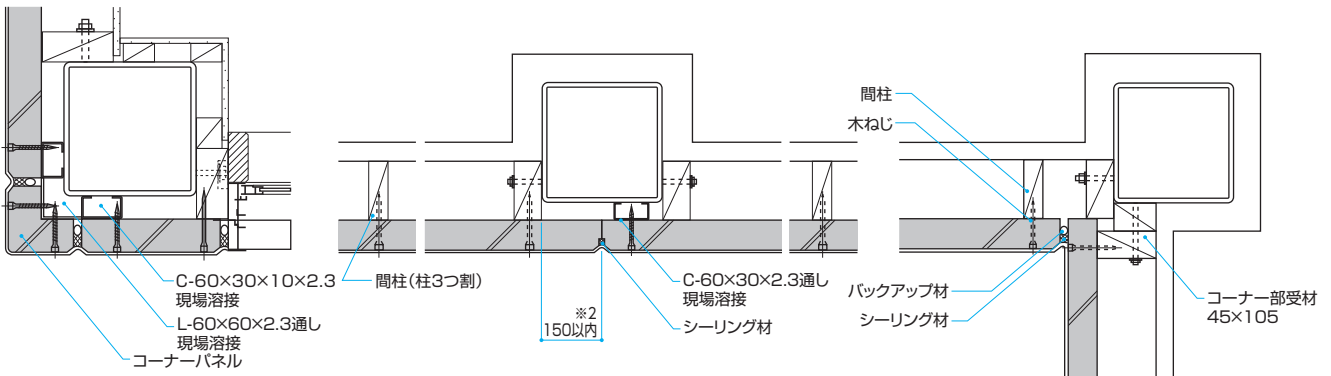


下地の設計(横張りの例)

出隅部(コーナーパネル使用) ※1

柱取合部 ※1

入隅部



⚠ 注意：パネルの設計

<一般部>

- パネル割付けは横張りが主体で、600mmの倍数が基準となります。長さ方向は1,800または1,820mmが標準的です。
- 一般部の目地は、突付け施工とします。

<出入隅コーナー部>

- 出・入隅、枠付きのサッシ取合部、軒天井取合部、配管など外壁を貫通する他部材との取合部には10mm程度のクリアランスを設け、シーリング材の打設代の確保と躯体の動きに追従させます。

⚠️ 注意：関連工事

<開口部>

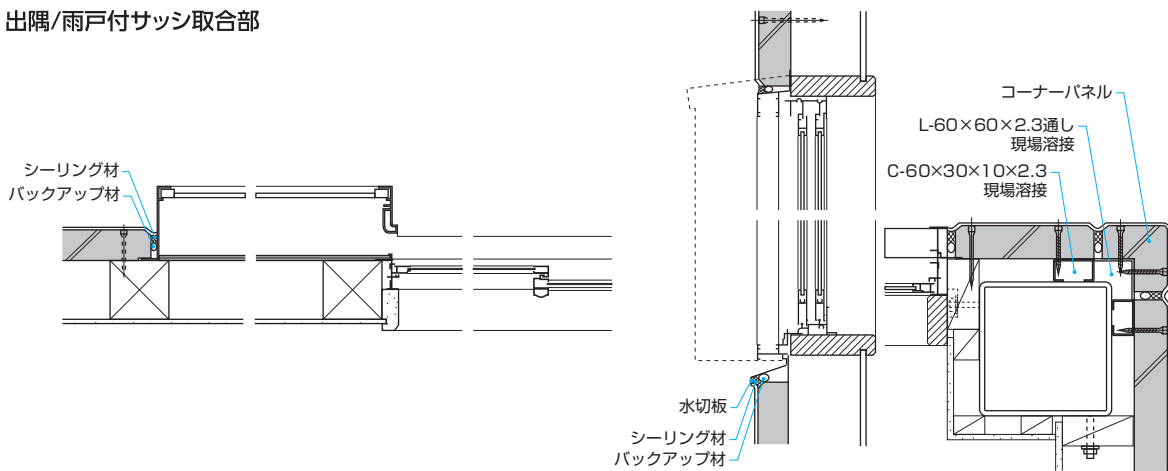
■開口部は美観上、開口は住宅用サッシの使用が可能です。ただし、水切板はパネル面より10mm以上の出が必要で水返し付きのものが適します。

⚠️ 警告

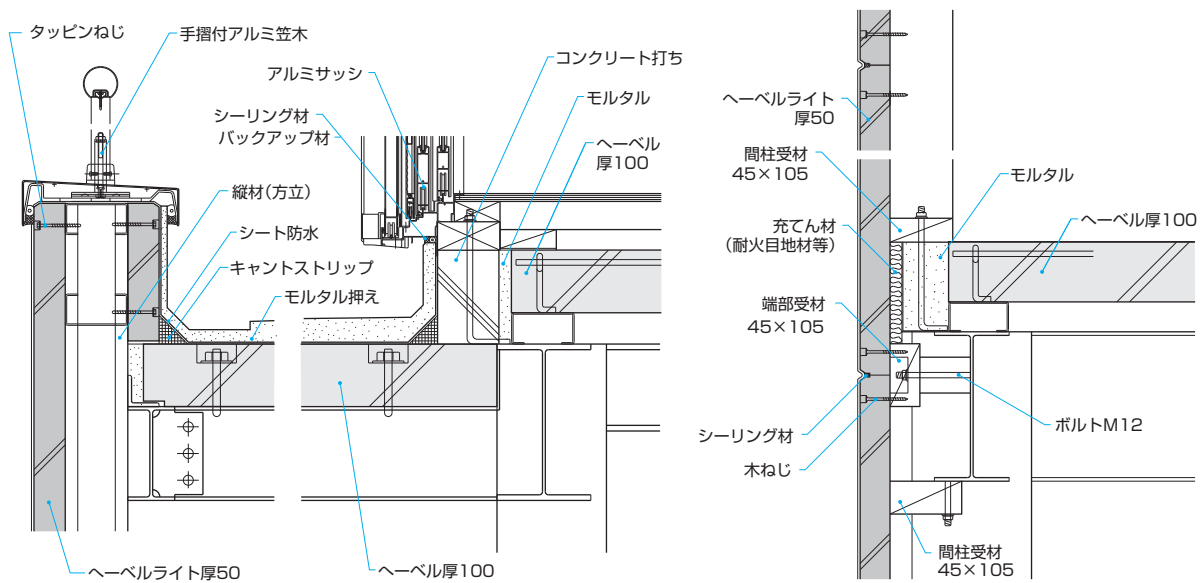
<手すり、重量物の取り付け>

■手すり、看板、雨樋受けなど荷重のかかるものは、パネルに直接取り付けず、必ず下地で支持します。

出隅/雨戸付サッシ取合部



ベランダ部/一般床取合部



⚠️ 注意：防・耐火構造認定の仕様説明

■鉄骨造の下地として木胴縁を用いる仕様は、耐火構造の認定を取得していません。

■準耐火構造・防火構造にご採用の際は、別途建築主事にご確認ください。